

開講日	2018年春期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学病院 病院教授 感染制御室 室長 中村敦		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】現代は薬剤耐性菌の時代と云われ、耐性菌の増加が公衆衛生上の世界的な問題となっています。2015年のWHO総会ではヒト・動物・環境を一体とした健康の維持・増進を目指すOne Healthの理念のもと、薬剤耐性 (AMR) 対策に関するグローバル・アクションプランが採択され、わが国も2016年の伊勢志摩サミットを契機にAMR対策アクションプランを公表、①普及啓発・教育、②動向調査・監視、③感染予防・管理、④抗微生物剤の適正使用、⑤研究開発・創薬、⑥国際協力の6つの分野における目標を掲げ、成果指標としての2020年の目標値が示されました。本講座では、日頃より感染症診療、感染管理に関わっている多職種のメンバーから様々な感染症への取り組みを発信します。 【期待される成果】感染症に関する基本的知識や新たな情報、再認識したいさまざまな問題を学ぶことにより、安心・安全で質の高い医療を提供することを目指します。		
目標とする 資格	ICD制度協議会:インфекションコントロールドクター、日本感染症学会感染症専門医、日本化学療法学会:抗菌化学療法認定医/指導医・認定菌科医師/指導医・認定薬剤師、日本看護協会:感染管理認定看護師、日本病院薬剤師会:感染制御認定薬剤師、日本臨床微生物学会感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)		

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	AMR対策へとつなぐ感染症診療	発熱患者を目の前にした時、病原診断や抗菌薬選択について合理的なアプローチをすることで患者の救済だけでなくAMR対策にもつながります。実例を提示しながら感染症診療のポイントを整理して行きたいと思います。	4月10日	部長 川端厚 トヨタ記念病院 感染症科
L-2	2	問題となるグラム陽性菌感染症	主に近年毎年増加傾向にある劇症型感染症を引き起こすA群レンサ球菌についてお話します。またこの細菌の薬剤耐性のメカニズムについても言及します。	4月17日	教授 長谷川忠男 名古屋市立大学医学研究科 細菌学
L-3	3	問題となるグラム陰性菌感染症	薬剤耐性 (AMR) 菌は、増加する一方で、新しい抗菌薬の開発は減少傾向にあります。我が国の臨床現場で問題となっている耐性菌の話題についてお話します。	4月24日	部長 柴田尚宏 東濃厚生病院 呼吸器科兼感染症科
L-4	4	結核・非結核性抗酸菌症の病態と感染対策	結核は排菌者から空気感染するのに対し、非結核性抗酸菌は生息する環境からヒトに感染します。これらの疾患の病態と感染対策についてお話します。	5月8日	講師 伊藤稔 名古屋市立大学医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学
L-5	6	肝炎に対する新たな治療戦略と職業感染防止	近年ウイルス肝炎の治療は大きく変わりつつあります。ウイルス肝炎に対する新たな治療戦略と感染予防、さらには針刺し事故による職業感染の防止対策についてわかりやすく説明します。	5月15日	准教授 野尻俊輔 名古屋市立大学医学研究科 消化器・代謝内科学
L-6	5	肺炎に対する新たな治療戦略と予防	現在わが国では肺炎が死因の第3位に位置し、高齢者の肺炎が社会的な問題となっています。耐性菌を考慮した肺炎の新たな治療戦略と肺炎発症の予防についてお話します。	5月22日	室長/病院教授 中村 敦 名古屋市立大学病院 感染制御室
L-7	7	輸入感染症の診療と感染対策	インバウンド・アウトバウンドの増加にともない、海外で流行している病気が国内に持ち込まれる機会が増えています。診療に際し気をつけるべき疾患と感染対策についてご紹介いたします。	5月29日	部長 長谷川 千尋 名古屋市立東部医療センター 感染症科
L-8	8	外科感染症と周術期感染予防	外科医が遭遇する感染症には、感染症自体が手術治療の対象となる外科感染症と、術後合併症としての術後感染症(手術部位感染)があります。それぞれの具体的な治療、対策についてレクチャーします。	6月5日	部長 若杉健弘 名古屋市立西部医療センター 一般外科
L-9	9	感染症・院内感染対策における微生物検査技師の役割	早期に病原性微生物の検出・特定を行うことは、感染症・院内感染対策においては必須であり重要です。これらの情報の発信源となる微生物検査技師の役割と、多様化する耐性菌・院内感染原因菌の検出検査方法までをお話します。	6月12日	微生物検査係 近藤周平 名古屋市立大学病院 感染制御室/ 中央臨床検査部
L-10	10	医療関連感染と感染予防策	標準予防策と感染経路別予防策は基本的な対策ですが、これらの実践により薬剤耐性菌の拡大を阻止することができます。事例や具体的場面を踏まえて一緒に復習したいと思います。	6月19日	副室長/感染制御実践看護師 小川綾花 名古屋市立大学病院 感染制御室
L-11	11	サーベイランスデータを活用した感染管理	サーベイランスは医療関連感染の発生状況を把握することにより、アウトブレイクの発生を察知したり感染対策活動の再強化が期待できます。事例を紹介しながら活用方法についてお話します。	6月26日	講師/感染管理認定看護師 畠山和人 一宮研伸大学 看護学部
L-12	12	アウトブレイクへの対応	アウトブレイク対応は感染の専門的知識と多職種による組織的な対応が不可欠です。定義から始まり、起こった時の対応の手順、データ収集方法など基本的な手法についてお話した後、実際の事例に合わせて確認していきます。	7月3日	感染管理認定看護師 田上由紀子 名古屋市立大学病院 感染制御室
L-13	13	抗菌薬の適正使用とAMR対策	抗菌薬、上手に使えていますか？病原菌を壊したり、増えるのを抑える一方で、抗菌薬は耐性菌を増やす一因にもなります。くさくさ治して、明日につなぐために、抗菌薬の知識を学びましょう。	7月10日	感染制御認定薬剤師 朝岡みなみ 名古屋市立大学病院 感染制御室/薬剤部
L-14	14	医療施設における正しい洗浄・消毒・滅菌の考え方	安全な医療器具を提供するには、医療現場で滅菌器具を使用するスタッフが知っておかなければならない洗浄・消毒・滅菌の基礎知識があります。普段、意識することが少ない洗浄・消毒・滅菌についてお話します。	7月17日	講師/感染管理認定看護師 田村秀代 愛知医科大学 看護学部
L-15& D-1	15	感染管理の国際支援と本シリーズの総括	発展途上国では感染管理の基本や耐性菌対策が十分にされていません。これらの向上を目指す私たちのボランティア活動を紹介いたします。最後に本シリーズの復習を通して総括します。	7月24日	室長/病院教授 中村敦 名古屋市立大学病院 感染制御室